



Title	故農學士高橋良直氏略傳
Author(s)	伊藤, 誠哉
Citation	札幌博物学会会報, 5(3), 210-214
Issue Date	1915-03-15
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/61219">http://hdl.handle.net/2115/61219</a>
Type	article
File Information	Vol.5No.3_009.pdf



[Instructions for use](#)

## 故農學士高橋良直氏略傳

本會正會員故北海道廳技師正五位勳六等農學士高橋良直氏は元仙臺白石片倉藩士高橋良次氏の長男にして明治五年九月貳拾五日石狩國札幌郡白石村に生る七歳の時父君長逝せられ爾後叔父良昌氏父として君の教養を務めらる、君は白石村並に札幌に於て小學の課程を修め明治十九年九月札幌農學校豫科に入學し二十四年本科に進み二十六年九月より植物病理學專攻生となり二十八年七月本科を卒業す、翌二十九年四月札幌尋常中學校教諭に任ぜられ三十年五月岩手縣盛岡尋常中學校教諭に轉じ三十二年一月兵庫縣姫路尋常中學校教諭に任ぜらる、居ること二年にして明治三十四年七月聘せられて北海道廳技師となり高等官七等に叙せられ同年八月北海道農事試験場勤務となり從七位に叙せらる、爾來十有三年一日の如く精勵事に従ひ累進して從五位勳六等高等官三等に陞叙せられ今回病革まるに及び危篤の旨 天聽に達し畏くも特に位一級を進められ正五位に叙せられたり。

之れより先き明治四十四年十月肺患に罹りしも攝生加療其宜しきを得殆んど全く健康を恢復せられしが本年九月九日再び舊痼の胃す處となり病篤に就き十月九日札幌區立病院に入院す、其後病勢頓に進み衰弱日に加はり十一月十三日午後十一時三十分昏睡の狀に陥り十四日遂に長逝せらる。

君は溫厚篤實率直にして寡言、邊幅を作らず聞達を求めず銳意學に親しみ夙に植物病理學の研究に志し本邦斯學の爲めに貢獻せられたるもの極めて大なりき晩年農事試験場の方針に基き専ら作物新品種育成の事業に従事せらる、其間諸般の研究並に所見は本會々報を初めとし各種の學會報其他の雜誌或は報告等に公にせられたるもの多く就いて之れを見れば如何に研究の廣汎にして學識の深遠なりしかを覗ふに足るべし、然りと雖も更に一層の研鑽を積まれたるは植物遺傳の研究にして大小豆を初めとし大小麥、稻等の遺傳現象並に斑入植物及び畸形植物等の實驗を行ひ其結果の一部完了せるものありと雖も未だ全部の研究終結に至らず尙苹果樹花腐病々原菌を發見し本菌の學術的並に實地的方面に於ける諸般の問題解決せられんとするに至れるも之れ亦發表の運びに至らざりき、天籍すに齡を以

てせず有爲の材を抱きて中道に逝く、學界の爲め痛惜措く所を知らず。

(大正三年十二月)

~~~~~

故高橋良直氏論文目錄

1. On *Ustilago virens* Cooke and a new Species of *Tilletia* parasitic on Rice-Plant.  
(植物學雜誌、第十卷十六頁、一圖版付 1896)
2. On *Ustilago Panici-miliacei* (Pers.), Winter.  
(同上第十六卷百八十三頁、一圖版付 1902)
3. 黍の黑穗病に就て  
(同上同卷二百四十七頁、1902)
4. 雜草殊に寄生雜草に就て  
(北海道農會報、第二卷二十號四十九頁、1902)
5. 作物病害の豫防  
(同上同卷二十一號一頁、1902)
6. 雜草としてのタンポ、  
(同上同卷二十二號一頁、一圖版付、1902)
7. 茄立枯病々原菌論  
(大日本農會報、二百五十六號、二百五十七號、1902—3)
8. 農作物病害に關する調査及び試驗成績
  - 一、大麥及裸麥の斑葉病と斑點病
  - 二、茄立枯病
  - 三、茄葉枯病
  - 四、萵苣の腐敗病
  - 五、梨の黑星病
  - 六、黍黑穗病豫防試驗成績

## 七、燕麥黑穗病豫防試驗成績

(北海道農事試驗場報告第一號自七十三頁至百十七頁、九圖版  
付、1903)

9. 北海道の氣候と馬鈴薯疫病との關係に就て  
(札幌農林學會々報第四卷二十六頁、1903)
10. 茄立枯病々原菌論  
(同上同卷十一頁、1900)
11. 北海道の氣候と馬鈴薯疫病との關係  
(北海道農會報、第三卷三十號十四頁、1903)
12. 麥類の銹病に就て  
(同上同卷三十三號十一頁、1903)
13. ホルドウ合劑の調製法に就て  
(同上同卷三十六號十六頁、1903)
14. 紫雲英の新病害  
(大日本農會報二百六十四號、十二頁 1903)
15. 本邦に於ける麥類銹菌の種類  
(植物學雜誌、第十八卷二百十三號二百十四頁 1904)
16. マヒタケ殊に其學名に就て  
(同上第十九卷三頁 1905)
17. 本邦に於ける麥類銹病の種類に就て  
(札幌博物學會報、第一卷第一冊三十九頁 1905)
18. ドクムギ略說  
(北海道農會報、第五卷五十六號六百四十七頁、圖版付 1905)
19. ドクムギ略說補遺  
(同上同卷五十七號七百十二頁 1905)
20. 麥類黑穗病豫防試驗成績  
黍黑穗豫防試驗成績

馬鈴薯疫病豫防試驗成績

大豆莢蠹蟲害對播種期節試驗成績

麥類銹病の種類

亞麻立枯病

苹果樹の葉蜂

(北海道農事試驗場報告第二號、自一頁至五十五頁五圖版付 1906)

21. A New Disease of the Hop-vine caused by *Peronoplasmopara Humuli*  
n. sp. (宮部博士共著)

(札幌博物學會報、第一卷第二冊百四十九頁 1906)

22. 二三の本邦産寄生菌に就て

(同上同卷百六十九頁 1906)

23. 麥類黑穗病豫防法

(北海道農會報、第七卷七十五號百二十九頁 1907)

24. 苹果樹腐爛病

(同上同卷七十六號二百十八頁 1907)

25. 栽培植物の品種の老衰するや否やを論じて併せて種子交換の問題に及ぶ

(同上同卷七十七號二百九十五頁 1907)

26. 小豆の植物學的研究

(札幌農林學會報、第二、三號百四十頁 1909)

27. 大小豆に關する生物統計的研究

(同上同號百六十三頁 1909)

28. 苹果花腐病に就て

(北海道農會報、第九卷百〇七及び八號六百四十一頁及び九百  
九十七頁 1909)

29. 渡島地方に於ける水稻品種の起源

(同上第十一卷百二十七、八、九號三百二十二頁、三百七十頁及  
び四百三十二頁 1911)

30. 種子交換に就いて  
(札幌農林學會報、第十二號七頁 1911)
  31. 胡瓜の黒星病に就て  
(園藝、第四卷十號七頁、一圖版付 1912)
  32. 余市に於ける苹果樹の新病害に就て  
(同上同卷同號九頁 1912)
  32. 本邦薔薇科諸果樹のモニリヤ病  
(宮部博士就職二十五年祝賀記念植物學襍説、百三十五頁、  
二圖版付 1912)
  34. 稻の發芽現象に就きて  
(札幌農林學會報、第十六號十四頁 1913)
  25. 糯稻の粳化に就て  
(同上第十七號百七十頁 1912)
  36. 牡丹及び芍藥の立枯病に就て  
(園藝、第五卷第七號一頁 1913)
  37. 故德淵永治郎氏略傳  
(札幌博物學會報、第五卷第二冊百三十三頁 1914)
-